令和6年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立 島 小学校)

目指す学校像

児童の豊かな心を培い、夢や希望を育む学校 教職 家庭や地域社会と共に歩み、協働し合う開かれた学校 教職員がもち味を生かし、授業や教育活動を創り出していく学校

重 点 目 標

- 1 学びを自律化し、情報端末を活用した個別最適な学習、探究的な学習を実現する
- 2 安心・安全な学校に向け特別支援・相談体制を充実させ、豊かな人間関係を作ることができる学校を実現する
- 3 コミュニティ・スクールとして成長し、保護者・地域と連携した学校教育を実現する
- 4 一人ひとりの教職員が力を発揮し、ライフステージにあった成長ができるよう、働き甲斐のある職場を作る

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、 方策の評価指標」を設定。

学校番号 073

達	Α	ほぼ達成	(8割以上)
成	В	概ね達成	(6割以上)
度	U	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

		_	学	校	自	Z	評	価			学校運営協議会による評価	
	年	度	目	標				年	度 評	価	実施日 令和7年2月21日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方针	策	方策の評	価指標	評価項目の選	<b></b> 全成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
っている学年が ○学力・学習答)の 「児童 (児童 を)の 「実験規律が守ら 組り、家庭と連携 増東題) 「学級人と連携 増東題) 「学級人人程度 は悪いない。 「学級に数人の 「学級に数人の 「学級にある」 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	<ul> <li>○学習状況調査では、市平均を上回っている学年と下回っている学年がある。</li> <li>○学力・学習の項目「進んで学習に取り組んでいる」(児童回答)の肯定的な回答の割合は9割程度である。</li> <li>○学級規律が守られ児童がおおむね集中して学習に取り組めている。本校独自の「家庭学習のすすめ」により、家庭と連携して積極的に学習に取り組める児童が増えている。</li> </ul>	・学びの自律化に 向けた情報端末 の活用、 基礎基 本の徹底	①スクールダッシュボードや、スタディサプリやドリルパークなどの学習への取組状況をスタディ・ログとして活用して学習相談を行い、児童が目標をもって学習できるようにする。 ②全国及び市の学習状況調査の最新の結果を分析するとともに、市教委の学力向上カウンセリング研修を受け、より効果的な手立てを設定し、学校全体で探究的な学習の実現を図る。		①学校評価の家庭学習への取組についての調査結果で、児童、保護者ともに肯定的回答が90%以上であったか。(昨年度 児童89% 保護者81%)) ② 学校評価の児童の調査結果(進んで学習している)が90%以上であったか。(昨年度89%) ③国や市の学力・学習状況調査の児童の調査結果が国や市の平均以上であったか。		<ul><li>①各学級でスタディサブリが活用され、学校評価のついての調査結果で、児1.5%であったが、保標を達成できなかった。</li><li>② 学校評価の児童の調査いる)が91.6%で目標の分析を行った。問題の分析を行った市平均を下回った。</li></ul>	D家庭学習への取組は 記童の肯定的回答は 記章の肯定的回答は 就護者72.0%で 結果(進んで学習し 票を達成できた。 習状況調査を全教員 ったが、調査結果は	B	・1人1台端末による家庭学習について、保護者の協力を得ながら、定着できるようにする ・全国学力・学習状況調査の分析結果から、本校の課題を捉え、本校の学校課題研修のテーマである「個別最適な学び」と結び付けながら授業改善を図る。	・家庭学習定着のためには、家庭への啓発が必要ではないか。 ・児童の学習意欲の向上は、「個別最適な学び」に向けての教員の取組によるものであると思われる。	
	<ul> <li>(課題)</li> <li>○学級に数人程度、集中力が維持できない児童が見られるため、個別指導や ICT の活用等、個に応じた指導法をさらに進めることが必要と考える。</li> <li>○持ち帰ったタブレットを家庭で効果的に学習に活用できるようにすることが課題である。</li> </ul>	・個別最適な学習 や探究的な学習 の充実	①各教員がタブレットを使習や探究的な学習を目指す②児童がオクリンクやムー的に活用して自分の考えきるようにする。	して授業を行う。 ·ブノート等を積極	①1人1台端末を全児童だか。 ②「学びの指標」探究的だ的回答が85%以上で2.5%)		①本校の研修課題「個別最 た授業公開を2学期中に 人1台端末を全児童が授 割合は89.8%で目標 ②「学びの指標」探究的な 定的回答が81%で目標	ご全教員が行った。 受業で毎日活用でき7 を概ね達成できた。 よ学習の実施状況の†	1 A	・授業における「個別最適な学び」に向けて、1人1台端末をより効果的に活用する方法を検討し、主体的、探究的に学習に取り組める児童を増やす。 ・1人1台端末等を活用して、互いの考えを表現し合う「協働的な学び」の研究も進めていく。	・「個別最適な学び」と「協働的な 学び」の一体的な充実を今後もすす めていくとよい。 ・デジタルとアナログのバランスが 大切である。	
0	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、91%である。 ○「先生は話を聞いてくれたり、見守ってくれたりしている」というアンケートで児童の肯定的な回答が、86%である。 〈課題〉 ○コロナ禍が児童に与えた影響からまだ完全に回復して	・安全な学校に向けた、児童一人ひとりへの細やかな特別支援・相談体制の充実	①教育相談日を月1回から 象案件を全校で共有でき じめの防止や早期発見。 む。 ②教育支援・相談に係る校 ルダッシュボードを活た をライフ・ログとして、 かに把握、分析し、適切 織的に支援、相談を行う。	る体制を整え、い を組織的に取り組 内委員会でスクー し、蓄積した情報 児童の状況を細や 」なタイミングで組	①学校評価の児童の調査結れたり、見守ってくれた答が90%以上となった 答が90%以上となった ②学校自己評価におけるす 者アンケートにおいても 的な回答の割合が昨年度	りしている)の肯定的回 か。(昨年度86%) 枚育相談体制に係る保護 も、関連する項目の肯定	①教育相談日を月1回からで、保護者からの相談にとができている。 ②学校評価「先生は話を関てくれたりする」の肯5.7%、保護者93.できた。	こより多くこたえる。 引いてくれたり見守- 定的回答は、児童	2   A	・教育相談部会・生徒指導部会の一層の充実を図り、不登校対応、いじめの防止等に取り組む。 ・教職員の働き方改革をより推進することにより、教職員がゆとりをもって児童と向き合い、児童の気持ちに一層寄り添えるようにする。	・教育相談日を月1回から2回 に増設したことで、保護者から も「気軽に相談できるようにな った」という声があがってい る。 ・相談できる体制を整え、児童 と向き合う時間が増えているの は良い。	
2	いない。心と生活のアンケートの結果に対しての適切な対応が求められる。 )教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが重要である。	・安全な生活の実 現に主体的に取 り組む児童の育 成に向けた学校 行事の充実	①交通安全教室や避難訓練 に自らの安全を確保する。 ②課題の解決策について議 会議を開催する。その中 現に向けた目標を児童自	技術を育成する。 論する児童主体の で安全な生活の実	る児童の割合が昨年度の ②児童が主体となって安全	舌している。」と回答す 94%を超えたか。	①交通安全教室や通常の選者対応訓練、シェルタート訓練等を通して、児童ることができた。学校記でり、交通安全や帰宅にしている。」と回答する8%で昨年度を超えた。②児童主体の会議の開催に題である。	- 訓練、シェイクア! 意に自助の意識を高さ 評価「学校の決まり? 持刻に気を付けて生活 5 児童の割合が 9 5.	か を 舌 A	<ul> <li>・避難訓練、竜巻を想定した訓練、不審者対応訓練を重ね、改善点等を踏まえたマニュアルを整備する。</li> <li>・警備会社、弁護士、警察等との連携により、児童の安全意識をさらに高める取組を行っていく。</li> <li>・委員会等が中心となって、児童が自ら安全な生活を考える機会の設定が課題である。</li> </ul>	・登下校指導の徹底が必要。 ・学校に防災備品を準備したら どうか。 ・児童の防災意識が高まってい ると感じるので、安全、防犯に ついて、児童が自身で考え、行 動する仕組みを考案してはどう か。	
ることに~ 協働して無いう共通野 〈課題〉 ○「今住ん~ な回答ので 。 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	○学校運営協議会において、家庭・地域と連携してできることについて熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくという共通理解が図られている。	・家庭・地域と連 携した取組の実 行と共有	①本校 Web ページや文書香レ」等による学校の様子の実施等により、目指す庭、地域と共有できるよ。 ②地域行事を積極的に児童業等に地域人材を活用し地域との連携を強化する。	の発信や学校公開 児童の姿を広く家 うにする。 に周知したり、授 たりして、学校と	ったか。(昨年度76% ②同じく「地域や社会を。	6地域の行事に参加して D割合が80%以上となり	①本校 Web ページや「スタ 域の力等について知らせ 一の作成・掲示や、地域 等により、地域との連携 ②「今住んでいる地域の行 の肯定的な回答の割合か や社会をよくするために 青定的な回答は91%で きた。	t、地域行事カレン。 成人材の授業への活り を図った。 庁事に参加している」 「81.5%、「地り 「何かしてみたい」の	B B	・学校運営協議会やスクール・サポート・ネットワーク等と連携を図り、児童が地域行事をより積極的に参加できるような具体的方策を検討する。 ・大学と連携したクラブ活動を発足させ、地域とともに児童を育んでいく。 ・地域に呼びかけ、授業等により多くの地域人材を活用する。	・スクリレにより、教育活動の 周知度が上がっている。 ・東大宮音頭という音楽の力で 啓発したのは良かった。 ・大学との連携も進んでいてよい。 ・地域行事への児童の参加が増 えた。より地域として支援でき	
	集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童 に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向け た方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出	・家庭や地域と協力体制を作り、 児童の自律につながる継続的な 取組の実施	①学校運営協議会を年に3 者全員から意見をいただ と連携を進める。 ②学習状況調査の結果分析 を用い、児童の自律につ ィ・スクールへと成長をE	き、保護者・地域 等の客観的データ ながるコミュニテ	か。 ②学校自己評価の学校、第	<b>又映させることができた</b>	①学校運営協議会での意見 宮音頭」を給食中の放送 の醸成を図った。 ②学校自己評価の学校、家	きで流すなど、郷土雲 戻庭、地域の協働を は回答が96.1%⁻	愛 問	・学習状況調査の結果分析等を学校運営協議会でも示し、目指すべき方向を共有していく。 ・参加者からの意見等を学校運営により反映させられるよう、熟議を充実させる。	る方法を考えたい。 ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、家庭との共通理解を図る取組に期待する。 ・地域のICT化も課題。 ・地域への参画は、小・中で連携して進めていく必要がある。	
4	(現状)  ○各教科等において、ICT (学習用タブレット、プロジェクター等)を効果的に活用した授業実践を推進している。ICT 専門部会で取り組んだ実践等について、教員に周知し、活用の幅を広げている。  ○学校評価において、教職員自身の働き方に係る項目についての肯定的な回答の割合は、76%である。  (課題)  ICTの効果的な活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。  ○全教員がより質の高い授業を目指し、教材研究を重ね、専門性を高め続けていくことが課題である。	<ul> <li>「さいたま市 GIGA スクール 構想」を推進す るためにエバラションでは、 ジェリスト等との打合せや研修 会の充実</li> <li>教科担任制の実 践及び研究</li> </ul>	① 「さいたま市 GIGA スク するために、エバンジェ」 成果を全職員に共有する。 ②教科担任制を拡大して実施 る。 ③登校時刻や日課の変更、名 等により、職員研修や教材 の時間を確保し、授業の別	リスト等の研修の 施し、充実を図 行事や会議の精選 対研究、学年会等	0%以上であったか。 ④学校評価「学校の勉強/	になったか。 拡大により、授業の質の し、働き甲斐があると感 職員の肯定的回答が8 (昨年度76%) は楽しく分かりやすい」 団答の平均値が90%以	校の授業、年次研修等ので共有した。 ②高学年における教科担任り、複数の教員で全児童った。 ③「仕事が充実し、働き甲る」の教職員の肯定的回	研修の成果を全職員制の拡大実施によ を指導する体制が整 斐があると感じてい 答は、88.4%で 楽しく分かりやす 的回答の平均値が8	A	・ICT をただ活用した授業ではなく、推進教員を中心として、授業でのより効果的な活用について研究を重ね、「個別最適な学び」につなげていく。 ・高学年教科担任制を引き続き実施し、中学年でも一部取り入れていく。 ・教職員の働き方改革により、研修や教材研究の時間を生み出し、より楽しく分かりやすい質の高い授業を展開できるようにする。	・ICT の活用で、技能系の教科も手元などを映して手本を見せるなど、工夫がされている。・オンライン授業の児童とリアルの児童両者への対応で教員の負担が心配。・教員の時間を確保するための取組は評価できる。・職員の私生活も含めたワークライフ・バランスも考えるとよいのではないか。	

令和7年度 学校自己評価システムシート ( さいたま市立 島 小学校 )

学校番号 073

学 校 教 育 目 標 やさしく かしこく 元気よく

・児童の豊かな心を培い、夢や希望を育む学校
・教職員がもち味を生かし、児童と共に授業や教育活動を創り出していく学校
・家庭や地域社会と共に歩み、協働し合う開かれた学校

 達 A
 ほぼ達成 (8割以上)

 成 B
 概ね達成 (6割以上)

 度 C
 変化の兆し (4割以上)

 D
 不十分 (4割未満)

【様式】

重点目标

1 学びを自律化し、情報端末を活用した個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びを実現する

2 特別支援・相談体制を充実させ、豊かな人間関係を作ることができる学校を実現する

■ 標 3 コミュニティ・スクールとして成長し、保護者・地域と連携した学校教育を実現する 4 ハード面、ソフト面の教育環境を整え、安心・安全な学校を実現する

5 一人ひとりの教職員が力を発揮し、働き甲斐のある職場を実現する

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、 方策の評価指標」を設定。

			学校	自己	評価		学校運営協議会による評価
	年	度	目標		年 度	評 価	実施日令和 年 月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
学びの質の向上に 子ど 小のサポー	(現状) ○学力・学習の項目「進んで学習に取り組んでいる」の 児童肯定的な回答の割合は9割程度である。 ○学級規律が守られ児童がおおむね集中して学習に取り 組めている。  (課題) ○学級に数人程度、集中力が維持できない児童が見られ るため、個別指導やICTの活用等により、個に応じた指 導をさらに進めることが必要である。 ○持ち帰ったタブレットを活用して、スタディサプリや ドリルパーク等を家庭で効果的に学習に活用できるよ うにすることが課題である。	・学びの自律化に 向けた情報端末 の活用、基礎基 本の徹底 ・個別最適な学 び、探究的な学 び、探究実	①スクールダッシュボードやドリルパどの学習への取組状況をスタディ・して活用して、家庭と連携しながらの学力を定着できるようにする。 ②全国及び市の学習状況調査の最新の分析するとともに、市教委のカウング研修を受け、効果的な手立てを設学校全体で探究的な学習の実現を図る ①ICT等を活用した「個別最適な学び」師と児童、児童同士の対面によるリ「協働的な学び」を組み合わせた多習活動の機会を創出する。 ②児童が自標設定、解決方法、学習形	ログと 、児童 ・			
サポートに関する取組     学校づく       1     2	(現状) ○「先生は話を聞いてくれたり、見守ってくれたりしている」というアンケートで児童の肯定的な回答が、95.7%である。 〈課題〉 ○「先生は話を聞いてくれたり、見守ってくれたりしている」というアンケートで保護者の肯定的な回答が、93.7%であり、児童よりも数値が低い。	・安心・安全な学校に、安全な、児童に人のいた。 の細長・大きなが、の変形を ・家庭と連携した。 特別の充実 ・特別の充実	職員が常駐し、児童の学習や生活のに対応しながら、教室復帰を支援する②「スクールダッシュボード」を活用積した情報をライフ・ログとして、タイミングで組織的に支援、相談を行①教育相談日を月2回から4回に増設象案件を全校で共有できる体制を整じめ防止や早期発見に組織的に取り組定学校行事等を調整し、保護者やお来校機会を確保する。	困難さ			
りに関する取組数とともにある数	(現状) ○学校運営協議会において、家庭・地域と連携してできることについて熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくという共通理解が図られている。 (課題) ○「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合は、80%程度である。学校運営協議会で共有した取組を実行し、地域人材のより積極的な活用や、地域行事等で児童が活躍できる取組を推進していく必要がある。	・家庭や地域と協力体制を作り、 児童の自律につながる継続的な 取組の実施 ・創立50周年記 念行事に向けた 取組の実施	①本校 Web ページや文書配信アプリ「レ」等による学校の様子の発信や学の実施等により、目指す児童の姿を庭、地域と共有できるようにする。②地域行事を積極的に児童に周知した業等に地域人材を活用したりして、地域との連携を強化する。 ①学校運営協議会を年に3回開き、毎者全員から意見をいただき、熟議の学校経営に生かす。 ②創立50周年記念に向けて、児童に愛する心を育み、児童が主体となっ取組を考案する。	校公開 保のために PTA や地域と連携を図っている。」の保護者の肯定的回答が90%以上であったか。(昨年度 81%) 9、授 ②市学習状況調査「今住んでいる地域の行事に参加している」の肯定的な回答の割合が、昨年度の81.5%以上となったか。回参加 ①学校運営協議会を年に3回開催し、参加者 からの意見等をもとに具体的な取組を行うことができたか。 郷土を ②市学習状況調査「地域や社会をよくするた			
関する取組	(現状) ○「毎日、安心して学校生活を送っている」というアンケートで児童の肯定的な回答が93%である。 (課題) ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが重要である。	・学校施設環境を整備し、児童の 安心・安全を確保する ・安全な生活の実 現に主か児の育成に向りである。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	①月1回の安全点検を徹底し、不備の 箇所について、1週間以内に改善する ②安全な環境整備に関して適切に予算 行う。	あった ①学校評価「毎日、安心して学校生活を送っている」の肯定的回答について、昨年度の規章93%、保護者94%を上回ったか。 ②施設の不備による事故がなかったか。 ② 節で 一			
教職員のキャリア形成に	(現状)  ○各教科等において、ICT (学習用タブレット、プロジェクター等)を効果的に活用した授業実践を推進している教員が増えてきている。 ○校務のデジタル化や効率化が進み、教員がゆとりをもって児童と向き合う時間が増えてきている。 ○学校評価において、教職員自身の働き方に係る項目についての肯定的な回答の割合は、88.4%である。  (課題) ○ICTの効果的な活用について、専門部会で取り組んだ実践や先進的に行っている教員の取組等について、教員に周知し、活用の幅を広げていくことが求められる。 ○全教員がより質の高い授業を目指し、教材研究を重ね、専門性を高め続けていくことが課題である。	・「さいたま市 GIGA スクール 構想」を推進す るための、ICT教 育推進教員研 会の充実 ・教科担任制及び 学校課題研修の 実践及び研究	① 「さいたま市 GIGA スクール構想」 するために、ICT 教育推進教員等の研 果を全職員に共有する。 ②校務のデジタル化、日課の変更、行 議の精選等により、職員研修や教材・ 学年会等の時間を確保し、授業の質 を図る。 ①教科担任制や学年内交換授業等によ り質の高い授業を展開する。 ②学校課題研修の充実を図り、島小学 ての「個別最適な学び」と「協働的 び」の定義づけを行う。	修の成 に活用できるようになったか。 ② 学校評価「仕事が充実し、働き甲斐があると感じている」における教職員の肯定的回答が90%以上であったか。(昨年度88.4%)  り、よ ①教科担任制や学年内交換授業等により、授業の質の向上が図られ、学校評価「学校の勉強は楽しく分かりやすい」における児童			